

食糧戦争時代の到来か 期待される「複合循環式陸上養殖」～安全・安心

食品の産地偽装、薬品使用等が連日マスコミを賑している。

一方、食料価格の高騰に関し、先般終了した洞爺湖サミットに出席した、国連事務総長・潘基文氏は「最近の食料高騰は、耐えられるレベルをすでに超えていると強調している。環境・エネルギー・食の中で食の問題は極めて重要なテーマである。敢えて順位付けるならば、第1位といっても過言ではない。

JIFASが長年にわたって研究開発を行ってきた魚介類の陸上養殖は「複合循環式陸上養殖」という形で、その集大成に向かっております。本技術は魚介類養殖の世界に誇れる最先端技術であります。消費者が安心・安全を求めることは当然のことであり、本技術は魚介類がもたらす排泄物が海藻の栄養源になるという、まさに自然界の現象です。

即ち、抗生物質、ホルモン等の薬品投下は皆無です。

ここに、約10年前に報じた、JIFAS NEWSから「フジ三太郎」のパラドックスが話題になった当時のことを掲載します。



1987年2月2日付朝日新聞より

載します。当時は、発癌性が認定されたニトロフラゾン、ニフルビリノールなどが魚の薬浴剤として、また、家庭用品として規制下にあった有機スズを、漁網用防汚材として長く使っていたことが、消費者の不信感を招いています。

魚介類に蓄積した抗生物質や耐性菌が、その魚介類を食べた人間に影響を及ぼします。

しかし、こうした社会的指弾にも拘らず、日本の養殖業界は破、未だ、事態を改善する手立てを欠いているのが実態です。自然界は、主としてバクテリアとミネラルが健全な生態系を支えてきたのです。

「複合循環式陸上養殖」は病原体を寄せ付けない新養殖技術です。その事業計画は、高知大学との共同研究実験データの集積にて、最終案が決定されます。

従って、「事業化推進委員会」の開催も迫っており、JIFASメンバー各位、各分野のアドバイザー方々のご協力をお願いする次第です。